

本を囲み、 学びをひらく。

「読みきかせサロン」開催レポート

2026年9月16日（水）

ももし図書館 / 予定 10:30～11:30



読みきかせに関わるメンバーが、日頃の疑問や経験を気軽に持ち寄りました。司書の先生の助言と参加者の実演を通して、子どもに本を届ける工夫を学び合う時間となりました。

見える・聞こえる

子どもの側から確かめる

本の力を信じる

表現は物語を支えるために

大人も楽しむ

読書の喜びを分かち合う

01 気軽に話せる場に

開会 / 予定 10:30～10:35

普段の活動では取りにくい「絵本や読みきかせについて、ゆっくり話す時間」をつくるという趣旨が共有されました。

02 緊張も、楽しさも

自己紹介 / 予定 10:35～10:42

初めて読んだときの緊張、子どもの反応の喜び、他の人の選書との出会い。活動の歩みへの感謝や、参加のきっかけも語られました。

03 子どもの側からしてみる

ワンポイント / 予定 10:42～10:52

自分が読みやすいように本を傾けると、照明が反射し、子どもには絵が見えにくくなる場合があります。正面だけでなく、端の席からの見え方も確かめます。

本を支える手や、めくるときの腕で絵を隠さないことも大切です。読み手は、子どもと本をつなぐ「黒子」です。

読み始める前に「みんな見える？」

一言が、位置や角度を調整するきっかけに。

04

聞き手になって分かること

参加者による実演 / 予定 10:52～11:05



参加者が絵本を読み、司書の先生や他の参加者が子どもの立場で確認しました。実際に聞き手になることで、本の角度や反射など、読み手だけでは気づきにくい点が共有されました。

科学読み物では

必要な場面で指をさし、見る場所をさりげなく案内する。動きや説明を増やしすぎず、理解を助ける程度に。

大きな絵本では

椅子の背もたれに自分の肘を置いて本を支える工夫を試しました。本番前に開き具合やページのめくりやすさも確認します。

05

迷いを持ち寄る

ディスカッション / 予定 11:05～11:15

感情や演出は、どのくらい？

小道具や表現は、本の世界を妨げないことが大切。必要以上に盛り上げようとせず、文章の力を信じます。他の人の読み方を聞くことも、自分に合う表現を探す手がかかります。

好きな本でも、読むのが難しいときは？

涙声になってしまう経験や、方言・独特な言い回しの難しさが話題に。自分が無理なく読めるか、子どもに伝えるかを考え、練習する、別の本を選ぶといった判断も共有されました。

声をきちんと届けるには？

文末まで明瞭に発音し、周囲の騒音に応じて声量や座る位置を調整します。離れた席にも言葉が届いているかを意識します。

子どもへの自己紹介は？

「誰々の母・父」に限らず、自分の名前や「読みきかせボランティア」という役割を伝える案が出ました。統一ルールでの決定ではなく、活動を知ってもらう工夫としての提案です。

耳から、物語が広がる。

06

「語り」の実演

予定 11:15～11:25

三まいのおふだ

司書の先生による昔話の語りを体験しました。絵を見せる読みきかせとは異なり、声の表現や間を手がかりに、聞き手が情景を思い描く時間です。

言葉を聞く → 情景を思い描く

聞き手自身の想像が、物語を広げていく。

07

想像する楽しさ

質疑・感想 / 予定 11:25～11:28

絵がない分、情景を豊かに想像できたという感想がありました。質問を受け、昔話は地域によって筋立てや結びの言葉が異なり、語り継がれる中で形を変えることも紹介されました。

耳で聞いた言葉を理解し、頭の中で情景を描く体験や、繰り返し聞く経験を重ねる意義についても説明がありました。

大人も、 本を楽しむ読者に。

08 活動案内・閉会

予定 11:28～11:30

親子で本を共有することにつながる読書会の構想が紹介されました。大人が教える側としてだけでなく、自ら読書を楽しみ、感想を子どもに伝えていくことを大切にしたい、という思いが語られました。

これからの構想

「桃四の10冊」を踏まえ、学期に一度程度、保護者やボランティアなどが本を読み、感想を交わす案。特定の一冊に限らず、好きな本を選ぶことや、卒業生の参加も視野に入れています。

学校関係者の前向きな反応も報告されました。自己紹介では、英語での読みきかせ企画にも言及がありました。

**日程・担当・募集方法は、
記録ではまだ確認できていません。**

最後に交流時間の案内、アンケートへの協力依頼、今後の活動への感謝が伝えられました。

次に試したい、5つのこと。

- ☐ 本の開き具合と、ページのめくり方を確かめる。
- ☐ 「みんな見える？」と聞き、位置や反射を確認する。
- ☐ 手や腕で絵を隠さず、文末まで言葉を届ける。
- ☐ 子どもが本の世界を楽しめるかを、表現の基準にする。
- ☐ 他の人の読み方や選書に触れ、自分自身も本を楽しむ。



編集・記録について

進行表と音声由来のログをもとに構成。時刻は予定です。参加人数の実績・アンケート結果・実際の終了時刻は未確認です。ログには予定時間超過への言及があります。個人的な事情や表記が不確かな書名・発言は掲載を控えています。挿絵は当日写真をもとに、背景や質感を整えたイメージです。

参照：進行表

コミュニケーションログ